

2017年3月期 決算説明会

2017年 4月28日



© 日本ガイシ・kero/dwarf

日本ガイシ株式会社2017年3月期の決算説明会を始めます。
本日はご多用の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日のプレゼンテーション

- 2017年3月期 連結決算概要
2018年3月期 業績見通し
- セグメント別情報
- 設備投資・減価償却費
- 中期イメージ・新製品・研究開発費
- 重点課題
- キャッシュフロー・総資産・配当

2

ご覧のような内容であわせて30分間程度ご説明させていただきます。



(億円)	16年3月期	1月公表値	17年3月期	前期比
売上高	4,358	4,000	4,013	為替影響 △195 △8%
営業利益	809	630	632	△81 △22%
経常利益	815	640	646	△21%
親会社株主に帰属する 当期純利益	533	350	364	△32%
換算レート	ドル 120円 ユーロ 132円		109円 119円	△11円 △13円

前期比 減収・減益

- 電力関連 がいし、NAS®電池共に減収・赤字。
- セラミックス 自動車関連製品は、好調な中国・欧州市場の乗用車販売や中国市場のトラック販売を反映し物量増も、円高により減収。費用増等もあり減益。
- エレクトロニクス 半導体製造装置用セラミックス製品は売上が増加。パッケージの需要減や円高により減益。
- 特別利益 投資有価証券売却益52億円を計上。
- 特別損失 競争法関連損失引当金繰入額63億円、固定資産減損損失42億円を計上。
- 法人税等 移転価格課税の更正を見込み過年度分112億円を計上。

3

まずは終わりました17年3月期の業績についてご説明いたします。
ご覧の通り、前期との比較で減収・減益となりました。

売上高は4,013億円と、前期比8%の減少となりました。
電力関連の出荷減や円高影響により減収となりました。

営業利益は、減収、円高の影響に加えて費用増もあり、
前期比22%減の632億円となりました。

その他、特別利益として、一部政策保有株式を売却し、
投資有価証券売却益52億円を計上しました。

また、特別損失として、

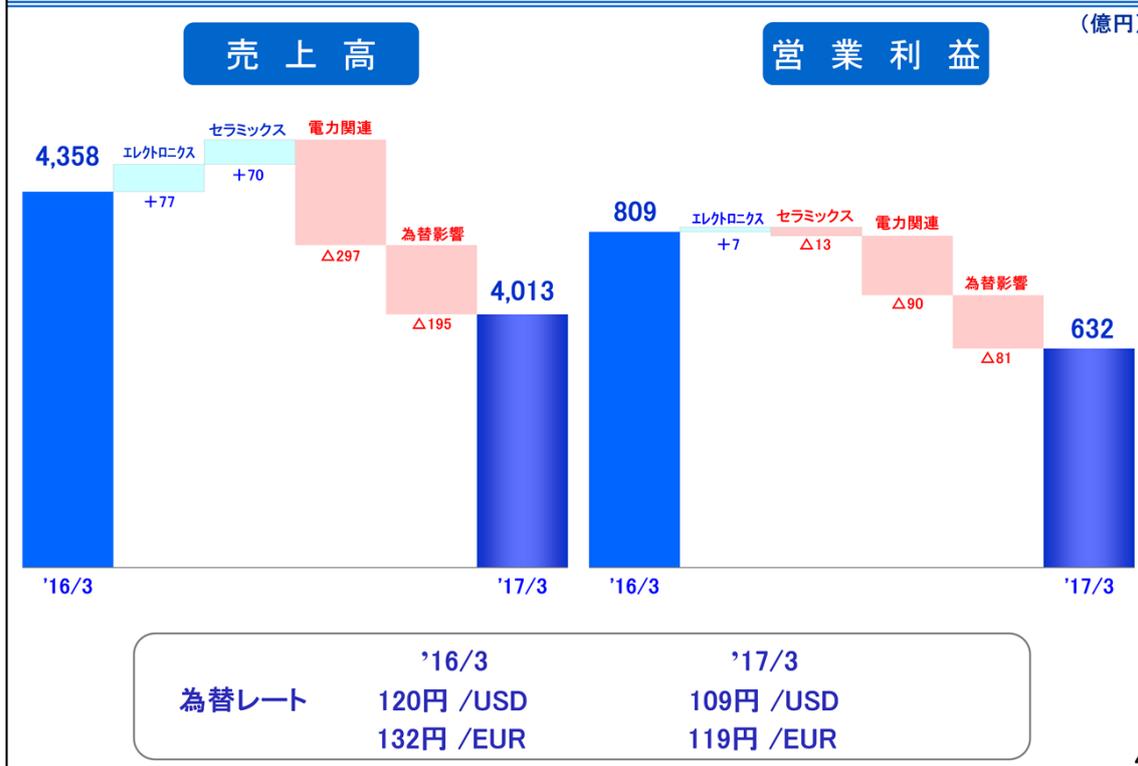
競争法関連損失引当金繰入額63億円

固定資産減損損失として42億円を計上しました。

法人税については、

当社のポーランド子会社との取引に関して、移転価格税制に基づく過去の更正処分については、
現在、東京地方裁判所で係争中ですが、後続年度についても更正処分を受ける見込みとなった
ことから、112億円を過年度法人税等に計上しました。

結果、当期純利益は、前期比32%減の364億円となりました。



次に、17年3月期の売上高・営業利益について前期からの主な変化をグラフで示しました。プラスはみず色、マイナスは赤色で示しております。

まず、為替レートについては、

ドル円で11円、ユーロ円で13円、の円高となった結果、

売上高で 195億円、営業利益で 81億円 マイナス影響を受けております。

為替影響を除いた各事業の実勢については、

エレクトロニクスは、半導体製造装置用セラミックス製品が好調で増収となりましたが、パッケージの需要が弱く、利益面では、若干の増益に止まりました。

セラミックスは、欧州市場の乗用車販売が堅調に推移したほか、中国市場で小型乗用車向けの減税策による販売増や、過積載車両の取り締まり厳格化に伴いトラック販売が増加したことなどから増収となりました。

利益は、開発費や立上げ費用増などにより減益となりました。

電力関連は、がいし、NAS電池ともに減収で赤字となりました。



	(億円)	17年3月期	18年3月期	前期比
売上高		4,013	4,200	+5%
営業利益		632	670	+6%
経常利益		646	680	+5%
親会社株主に帰属する 当期純利益		364	450	+24%
換算レート	ドル	109円	105円	△4円
	ユーロ	119円	115円	△4円

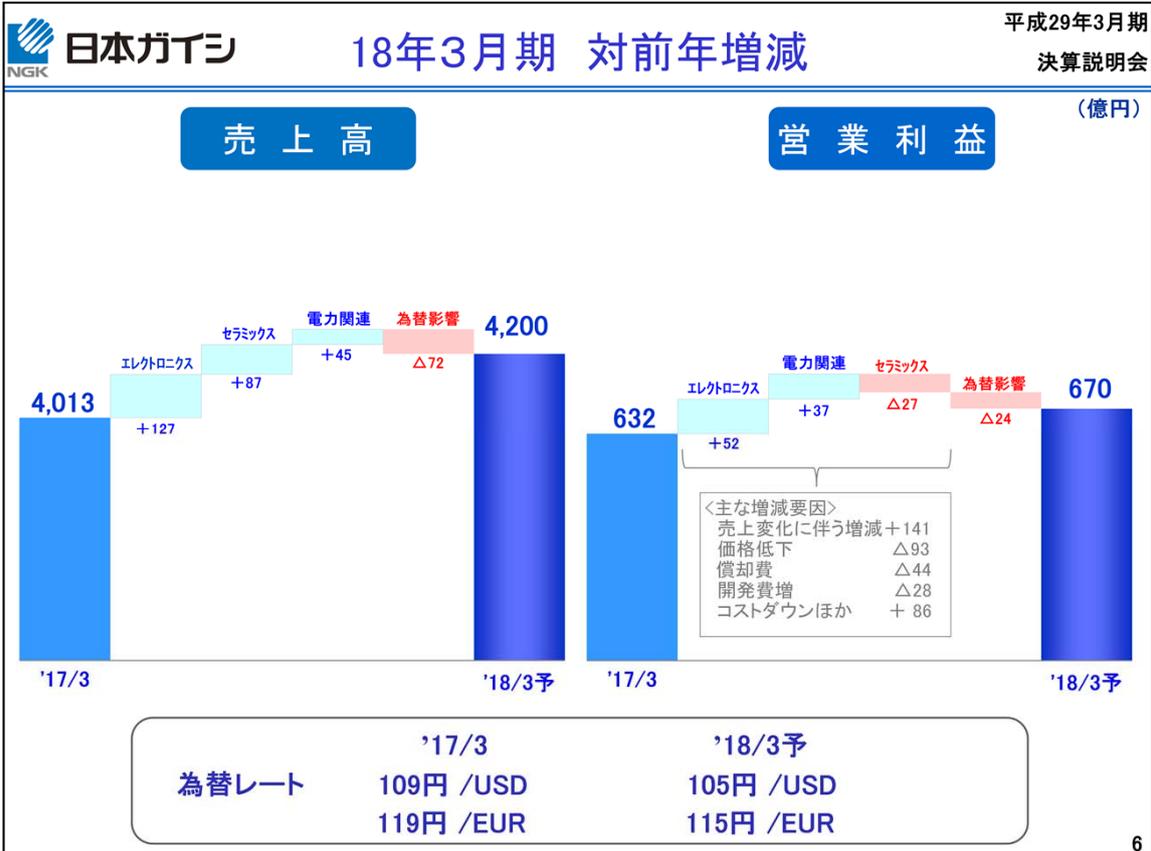
前期比 増収・増益の見通し

- 電力関連 がいしは海外案件増を見込む。NAS®電池は大口出荷がなく赤字継続。
- セラミックス 中国市場のトラック販売増や、欧州の排ガス規制強化により自動車関連製品の需要が増加。開発・償却費増等により減益の見通し。
- エレクトロニクス 半導体製造装置用セラミックス製品の需要が好調なほか、ウエハー製品等の需要増により、増収・増益。

続きまして、新年度、18年3月期の見通しです。

前期比で増収・増益の見通しで、

売上高は4,200億円、営業利益670億円、当期純利益は450億円です。



6

新年度の売上高・営業利益の見通しについて、前期からの主な変化をグラフで示しました。

まず、売上高について、
エレクトロニクスは、半導体製造装置用セラミクス製品の需要が好調であるほか、
複合ウエハーについても需要が増加し、増収の見通しです。

セラミクスは、中国市場のトラック販売台数の増加や、欧州の排ガス規制強化などにより、
増収を見込んでいます。

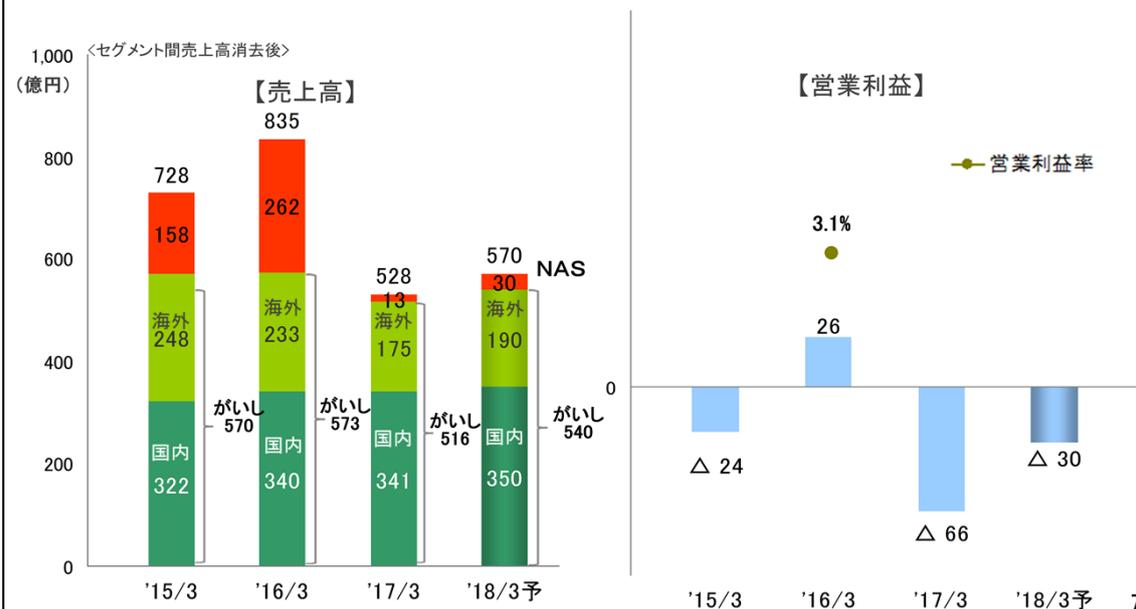
また、電力関連は、がいしの海外案件増を織り込み増収の見込みです。

営業利益につきましては、
エレクトロニクスが増益で、電力関連の赤字も圧縮しますが、セラミクスは自動車関連製品の
値引きや、開発費や償却費の増加などにより、減益を見込んでおります。

また、為替の前提レートを ドル円:105円、ユーロ円:115円と置いたことにより、
前期比で、ドル円が 4円、ユーロ円が 4円 の円高となることから、
売上高は 72 億円の減収、営業利益は 24億円の減益要因となっております。

為替感応度は平均レートが1円円安になると、
ドルで 売上高=12億円、営業利益=6.1億円、
ユーロで売上高= 6億円、営業利益=1.0億円の増収増益となります。

- がいし・国内取替需要は堅調。海外は北米の需要低迷が続くも、中国向けの出荷増により売上回復を見込む。
・国内工場の生産体制縮小など固定費削減を図り、2018年3月期の黒字化を目指す。
- NAS
・国内外共に大口出荷がなく赤字が継続する見通し。
・事業運営体制をスリム化し赤字縮小を見込む。



引き続き、セグメント別の業績見通し、事業環境、事業の課題についてご説明します。

まずは電力関連事業について

新年度は、売上高570億円、営業利益は30億円の赤字と、前期比増収を目標としますが、赤字が続く見通しです。

がいしは、国内の需要は堅調に推移しています。

また、海外は、北米の需要低迷が続いているものの、中国向けの出荷増を織り込み、増収を見込んでおります。

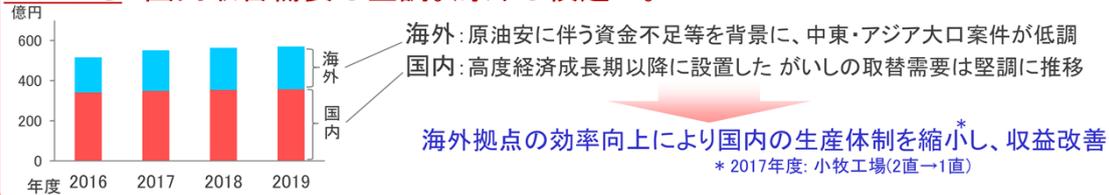
利益面では、国内の生産体制を縮小するなど固定費を削減し、黒字化を目指します。

NAS電池については、新年度も引き続き大口出荷が無く、赤字の見込みです。

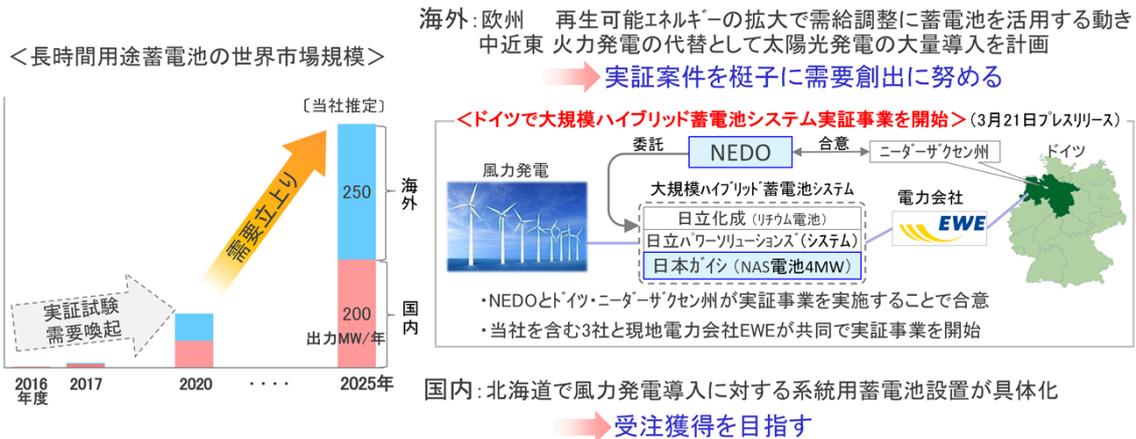
ただし、直接・間接部門ともに事業運営体制をスリム化しており、

赤字幅は縮小する見通しです。

■ **がいにし** 国内取替需要は堅調。海外は横這い。



■ **NAS®電池** 需要本格化には時間を要するものの、潜在ニーズは高い



電力関連事業の先々の見通しについてご説明します。

まずは、がいにしについて、

国内は高度成長期以降に設置した がいにしの取替需要が堅調に推移していく見方に変わりありません。

一方、海外向けの需要は、原油安に伴う資金不足などにより中東・アジア向けの案件が低調で、当面、横這いの見通しです。

こうした状況に対し、海外拠点の生産性改善が進み、準備が整ってきたので、今期にまず国内小牧工場の生産体制を2直から1直に縮小し、収益改善を図ってまいります。

NAS電池について、

大容量蓄電池の需要本格化には未だ時間が掛かると見ていますが、足許では潜在的なニーズが高まりつつあります。

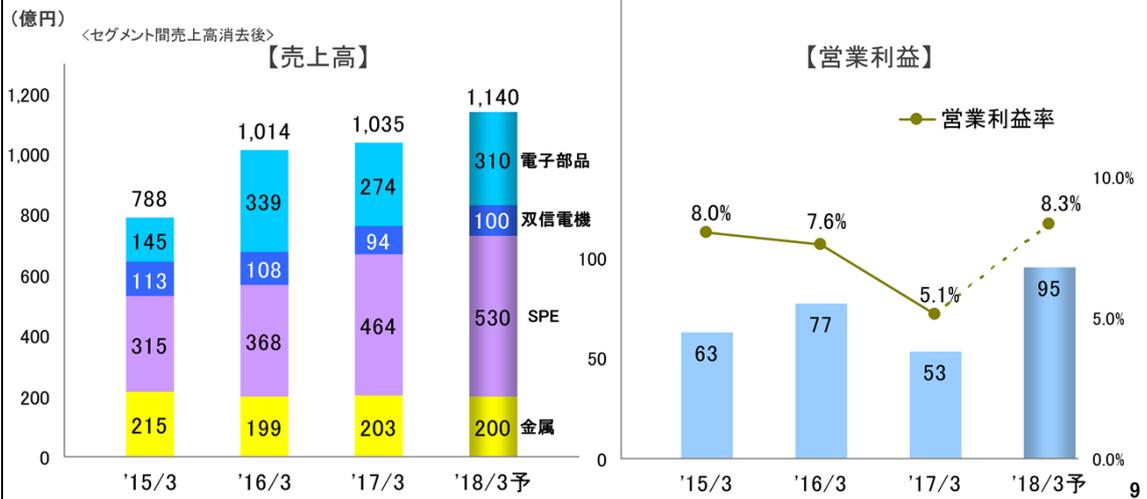
海外では、欧州で再生可能エネルギーの拡大と共に、需給調整に蓄電池を活用する動きが出てきているほか、中近東でも火力発電の代替として太陽光発電を大量導入する計画が持ち上がっています。

欧州での一例としては、3月21日にプレスリリースしましたが、当社はNEDOの委託を受け、日立グループの2社、現地電力会社と共にドイツ・ニーダーザクセン州におけるハイブリッド蓄電システムの実証事業を行うことになりました。

こうした実証を通じて実績を積み、次のビジネスに繋げていきます。

また、国内では、北海道で事業者による風力発電の大量導入に対し、電力系統側に蓄電池を設置する検討が具体化しており、受注の獲得を目指します。

- 金属
 - ・ベリリウム銅製品の需要は横這い。新材料や新用途品を拡販し事業拡大を目指す。
- 半導体製造装置用セラミックス(SPE)
 - ・半導体の高集積化・微細化を背景に、半導体メーカーやファウンドリの設備投資が高水準で継続し増収・増益。
- 電子部品
 - ・モバイル通信向け高性能フィルターの市場拡大を背景に、複合ウエハー製品の需要が増加。パッケージは既存製品の需要は横這い。新製品群の投入・拡販により成長を目指す。



次にエレクトロニクス事業です。

新年度は、売上高1,140億円、営業利益95億円と、前期との比較で増収・増益の見通しです。

金属については、ベリリウム銅製品の需要は横這いの見通しで、新材料や新規用途品の拡販により、事業の拡大を目指します。

SPE（半導体製造装置用セラミックス製品）については、半導体メーカーやファウンドリによる設備投資が増加し、増収・増益を見込んでいます。

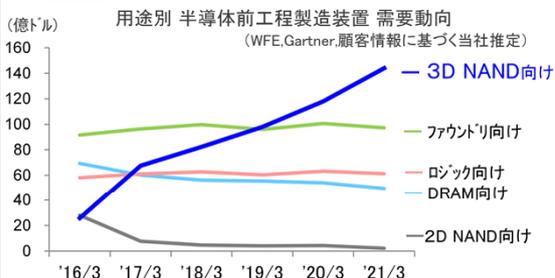
電子部品は、複合ウエハーの需要が増加するほか、セラミックパッケージの新規製品の投入により増収を目指しますが、今期は全体で赤字が残る見通しです。

また、双信電機について、前期は赤字でしたが、新製品の市場投入とコスト削減により、今期は黒字化する見通しです。

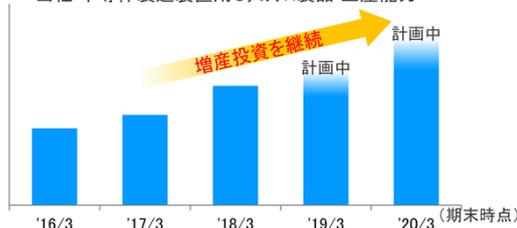
■半導体製造装置用セラミックス製品



モバイル機器やデータサーバーなどの記憶装置需要が旺盛で3D-NAND関連の投資が拡大。半導体製造装置の需要は増加する見通し。



当社 半導体製造装置用セラミックス製品 生産能力



増産投資を積極的に実施し需要増を確実に取込む

■パッケージ製品(電子部品)

新製品群の投入・拡販加速



光通信ネットワークの高速通信化※により需要拡大。
※10G(Gbps)から100G,400Gへ移行



パワー半導体用途で、市場成長が見込まれる産業用ロボット、HV/EV車向けの拡販に注力。

既存品の収益力強化



IoTの進行や、基地局で新世代移动通信システム「5G」の新規インフラ整備が見込まれる。コストダウン等の収益力強化を進める。

既存事業の収益力強化と新製品開発により事業の拡大を図る。

■ウエハー製品(電子部品)

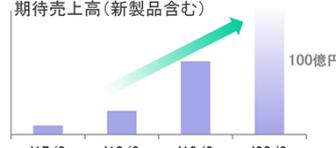
新製品: 窒化ガリウム(GaN)ウエハー

SAWフィルター用複合ウエハー

・モバイル通信の高速・大容量化により多バンド化が進み、高性能SAWフィルター用に当社複合ウエハーの需要が増加する見込み。



当社ウエハー製品群の期待売上高(新製品含む)



増産・コストダウンを図ると共に、新製品の開発を促進する

エレクトロニクス事業の今後の成長について、ご説明します。

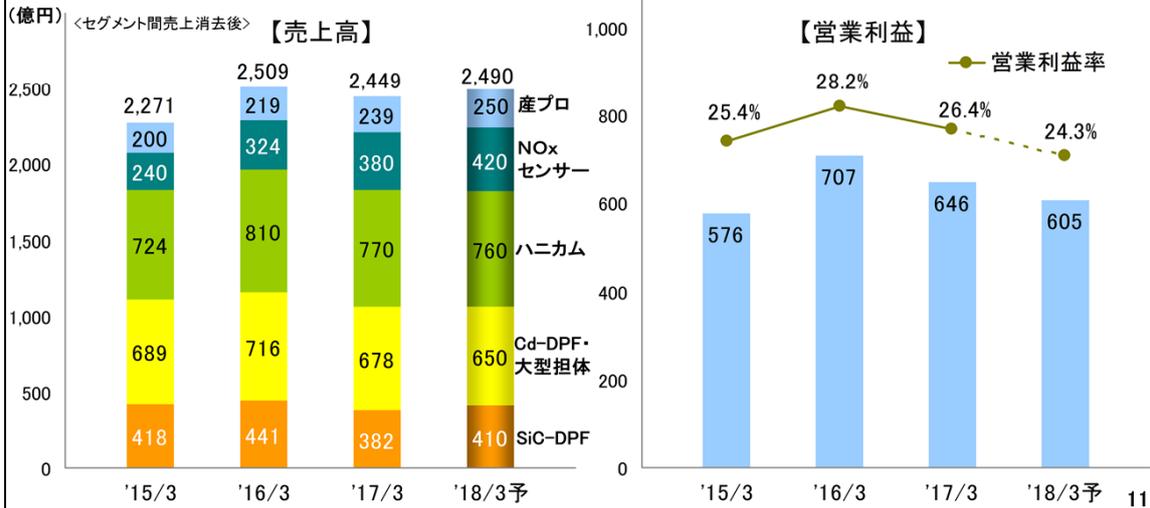
左側のSPEについては、上段のグラフにありますように、半導体製造装置の需要につきましては、モバイル機器やデータサーバーなどの記憶装置用に3D-NAND型フラッシュ・メモリーの需要が旺盛で、今後、関連する設備投資がますます増加すると見ています。足許の需要も非常に強く、当社は増産投資を積極的に実施し、需要の増加を確実に取り込みます。

右側上段のパッケージ製品について、光パッケージや絶縁回路基板などの需要の拡大が見込まれる新製品群については、開発のスピードを上げ、市場投入や拡販に注力し、事業の成長に繋がります。

既存品のRFパッケージや水晶パッケージについては、IoTの進行や、次世代の高速通信である「5G」のインフラ整備が進み、中長期的には、緩やかに需要が拡大すると見ています。コストダウンを進め、収益力強化を図ります。

下段、ウエハー製品については、モバイル通信の高速化・大容量化により、高性能SAWフィルターの市場が拡大しており、増産・コストダウンを図ると共に、窒化ガリウムウエハー(GaN)など次の新製品の開発を進めます。こちら(GaNウエハー)は後ほど追加で説明いたします。

- 自動車関連
 - ・総じて償却費・開発費の増加や値引き等により減益の見通し。
 - ・ハニカム：中国市場の乗用車販売が堅調で需要が増加。
 - ・大型担体：中国市場のトラック販売増等により需要が増加。
 - ・Cd-DPF：一部でSiC-DPFへの切替えがあり、需要が減少。
 - ・NOxセンサー：中国市場のトラック販売増に加え、欧州の排ガス規制強化により需要が増加。
- 産業プロセス
 - ・国内・中国の客先で車載用リチウムイオン電池関連の投資が続き、加熱装置が好調。
 - ・原子力関連設備の改補修案件も増加。



次にセラミックス事業です。

新年度は、売上高2,490億円、営業利益605億円と前期比で増収、減益の見通しです。

自動車関連製品の需要動向につきましては、

中国市場の乗用車・トラックの販売台数の増加や、欧州の排ガス規制強化により需要拡大が続く見通しです。

ただし、円高影響に加え、値引きや償却費・開発費の増加等により利益は減益の見通しです。

製品ごとの今期の見通しは、

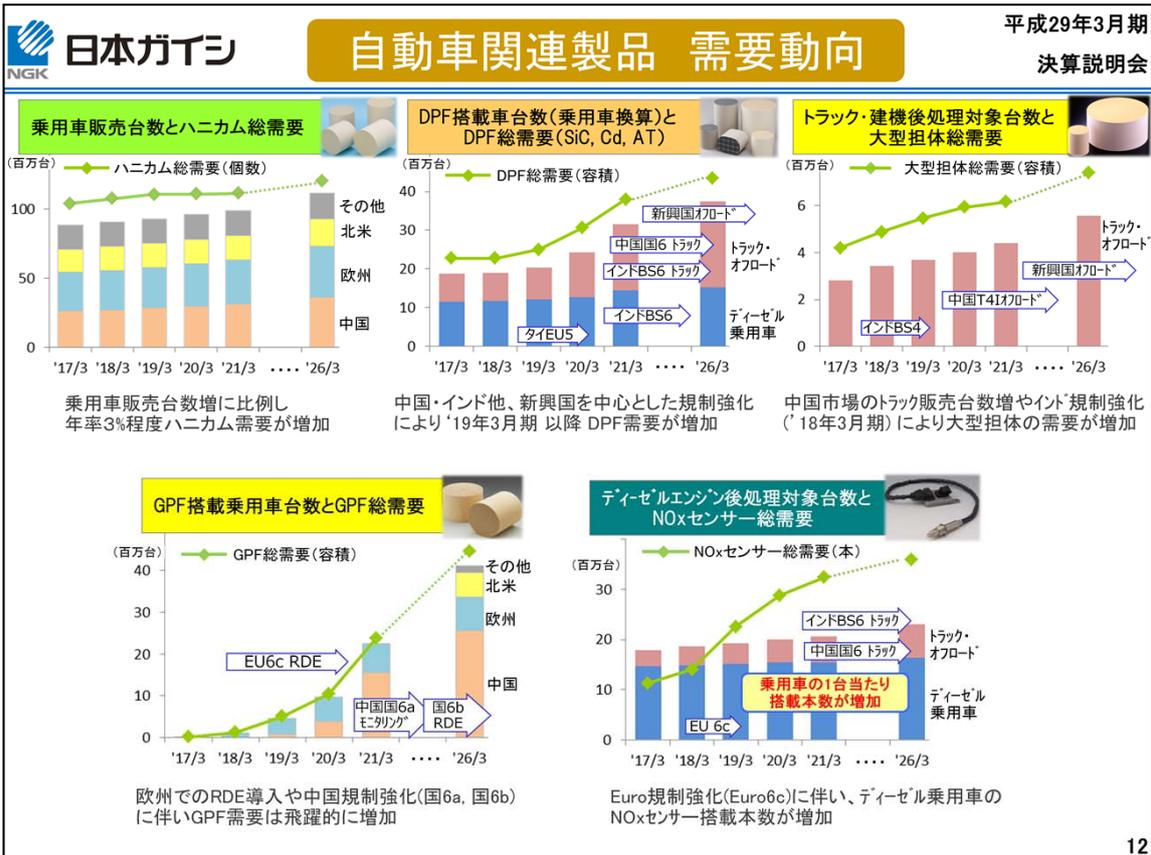
ハニカムでは、中国市場の乗用車販売が堅調で物量は増加を見込んでいますが、円高もあり減収です。

大型担体は、中国市場のトラック販売が堅調で需要が増加しますが、

Cd-DPFは、一部でSiC-DPFへの切り替えの動きがあり需要が減少する見通しです。

NOxセンサーは、中国市場のトラック販売増や、欧州の排ガス規制強化により需要が増加する見通しです。

産業プロセスについては、国内・中国の客先で車載用リチウムイオン電池関連の投資が続いていることから、特に加熱製品の需要が好調です。



当社の想定する自動車関連製品の中長期的な需要動向についてご説明します。

上段左上より、ハニカムの総需要については、世界の乗用車(新車)販売台数と概ね連動し、年率3%程度ハニカムの需要増を見込んでいます。

上段真ん中のDPFについては、中国・インドのほか新興国を中心に順次規制強化が進み、DPFが搭載されるディーゼル乗用車や、トラック・オフロードの対象台数が増加することで、DPFの需要が拡大する見通しです。

上段右側の大型担体については、中国市場のトラック販売台数増加と新興国での排ガス規制強化により需要が増えると考えています。

下段に移りまして、下段左側のガソリン乗用車のススを取るGPFにつきましては、欧州において2017年9月よりRDEが導入されるのを皮切りに、中国においても規制強化が進み、GPF搭載台数が飛躍的に増加すると見えています。

下段右側のNOxセンサーにつきましては、欧州の規制強化に伴い、ディーゼル乗用車1台あたりにおけるNOxセンサーの搭載本数が増加し、対象となるディーゼル乗用車の台数増以上にNOxセンサーの需要が大きく伸びると見えています。

こうした中で当社としては、拡大する需要を確実に取り込むべく、グローバルに生産体制を強化してまいります。

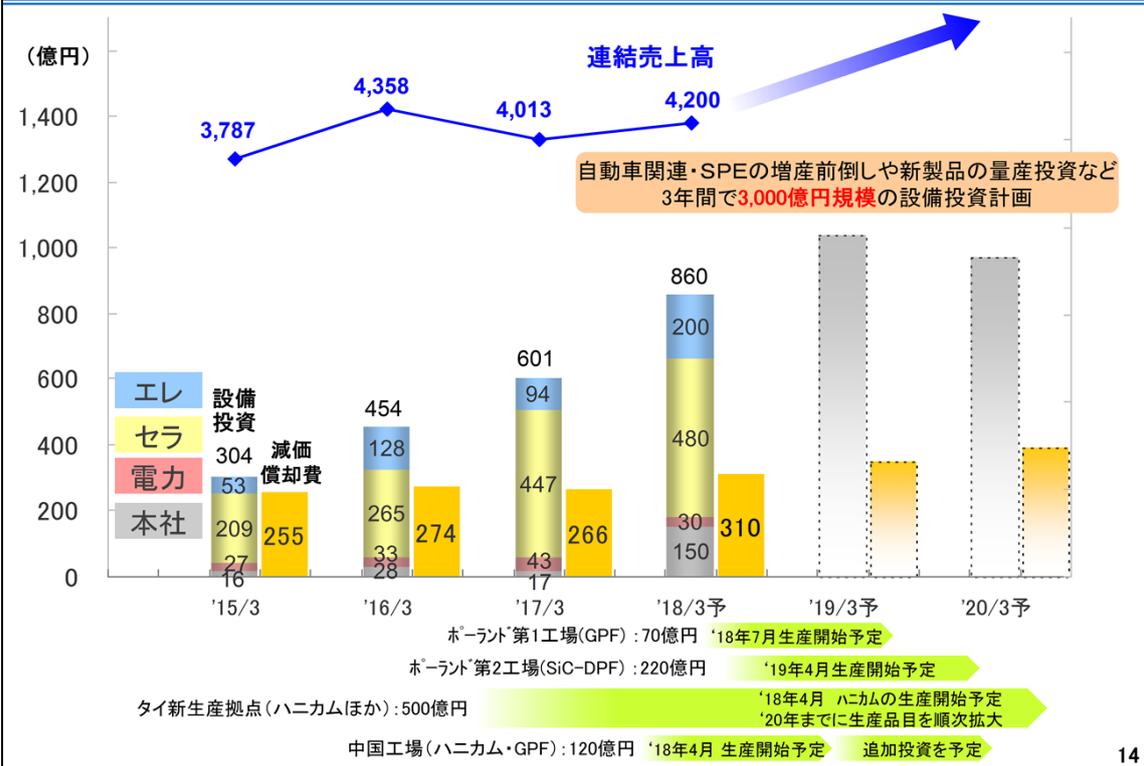


グローバル生産体制の強化について、ご説明します。

3月30日に、ポーランド工場の生産能力増強について公表しました。
今回の設備投資は、70億円を投じて、ポーランド第1工場の既存の工場内に、
GPFの生産設備を増設するほか、
220億円を投じて、第2工場の現有敷地内に新しい建屋の建設と
SiC-DPFの生産設備増設を実施するものです。

GPFについては、欧州の排ガス規制強化に伴い、
ガソリン直噴エンジンの車向けに需要が増加する見込みであるほか、
SiC-DPFについては、中国やタイ、インドなど新興国の規制強化に伴い、
ディーゼル車への搭載が見込まれています。

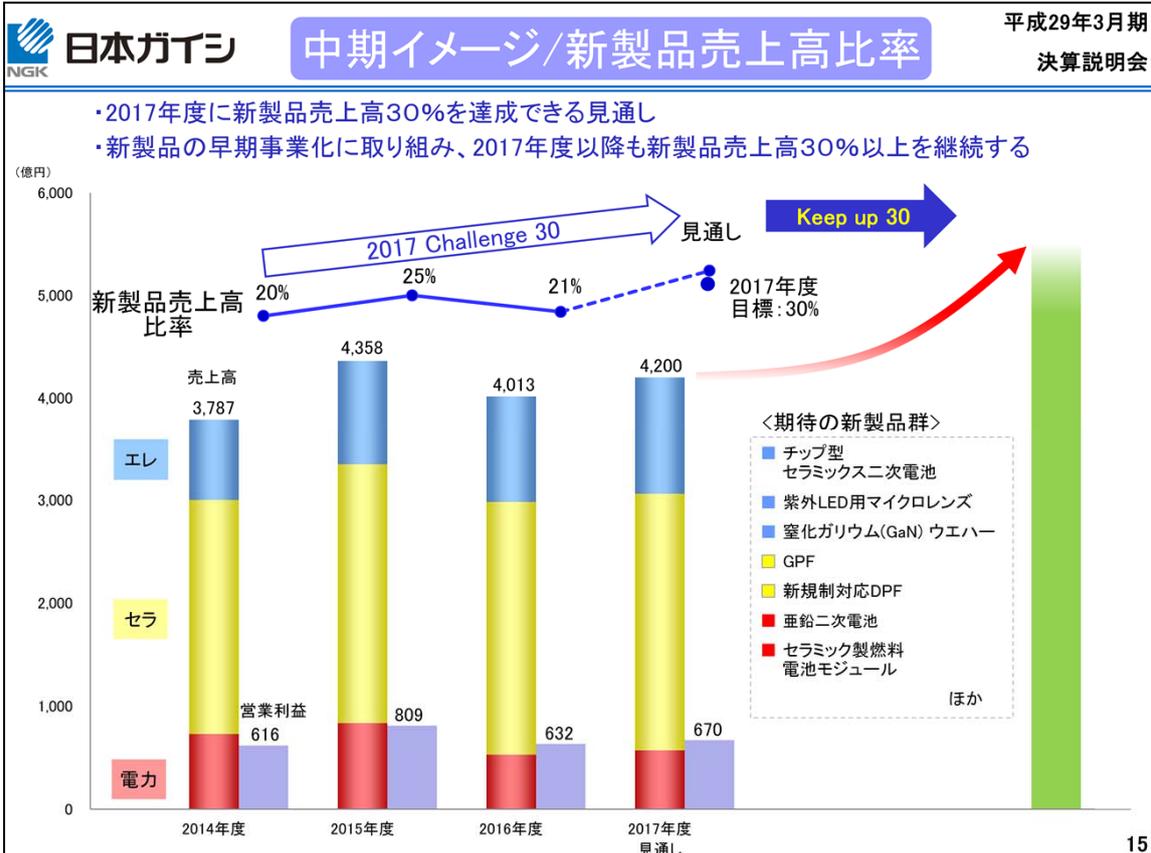
ポーランド第2工場は2017年の2月にすでに生産開始しているほか
石川工場のNOxセンサーについても4月に生産開始しております。
また、その他の拠点においても、順次、更なる能力増強を進めております。



当期の設備投資は、
自動車関連製品やSPEの増産投資に加え、
新製品の量産投資など、総額860億円を予定しています。

当期を含む向こう3年間では、計3,000億円近い規模となる見込みです。

減価償却費につきましては、当期310億円で、
来期以降について毎年40億円程度のペースで増加する見通しです。



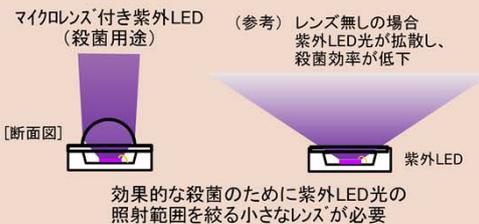
中期イメージと、新製品売上高比率です。

棒グラフ左側が事業別の売上高、右側が営業利益を表しており
 折れ線グラフは売上高に占める新製品売上高の比率を示しております。

2017年度に向けて、この比率を30%まで引き上げることを目標に
 「2017 Challenge 30」と称して新製品・新事業の創出に取り組んできましたが、
 目標を達成できる見通しです。

2018年度以降についても、新製品売上高比率30%以上を維持する
 「Keep up 30」を目標に掲げて活動していきます。
 新製品の事業化による貢献も加わり、数年以内に売上高では5000億円を超える
 成長性を目指していきます。

囲みの中に具体的な期待の新製品群を示しておりますので、次のスライド以降にて、
 その中身について説明します。

 日本ガイシ		新製品の早期事業化 オプト部材プロジェクト		平成29年3月期 決算説明会
窒化ガリウム (GaN) ウエハー		紫外LED用マイクロレンズ		
				
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・独自液相法によりウエハー全面での低欠陥※を達成 ・超高輝度照明光源(レーザー、LED)を実現 		<ul style="list-style-type: none"> ・独自製法により複雑形状対応可 ・紫外光に対し高透過、高耐久 	
最終用途				
進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度中の先行量産開始を目指し、複数の大手客先にて認定評価中 		<ul style="list-style-type: none"> ・複数社から出荷要請(10社以上でサンプル評価中) ・2018年度の先行量産開始を目指す 	
全社横断組織「オプト部材プロジェクト」を新たに発足				

16

早期事業化を目指す新製品についてご紹介します。
1つめは、窒化ガリウム (G a N) ウエハーです。

こちらの製品は2017年度中の先行量産を目指して、現在、複数の大手客先において認定評価中です。

これまでにもご紹介してきましたが、液相法による当社独自の結晶成長技術を用いて、ウエハー全面での低欠陥を達成しています。

当社ウエハーを基板に用いることにより、今までにない超高輝度のレーザーやLEDが実現できます。プロジェクターやスタジアムの照明など光量が足りないため今までレーザーやLEDが使われていなかった分野での超高輝度の光源としての応用が期待されています。

2つめは、紫外LED用マイクロレンズです。

樹脂硬化や殺菌/浄化などの用途にて現状普及している紫外 (UV) 光源には水銀ランプが用いられていますが、「水銀に関する水俣条約」により2020年以降使用禁止となる可能性があるため、水銀を用いない紫外LEDが注目されています。紫外LEDを効率良く用いるには、光源となるチップから出た紫外線を収束させる必要があります。透過性や耐久性の高いレンズが必要となりますが、当社は、当社独自の製造技術を応用して、高品質・複雑形状の透明石英ガラス製レンズを開発しました。

現状、10社以上でサンプル評価中であり、複数社からはすでに出荷の要請も出ております。2018年度にも先行量産開始を目指しています。

これらの2製品について、エレクトロニクス事業での事業化を見据えて、4月に全社横断組織の「オプト部材プロジェクト」を立ち上げました。

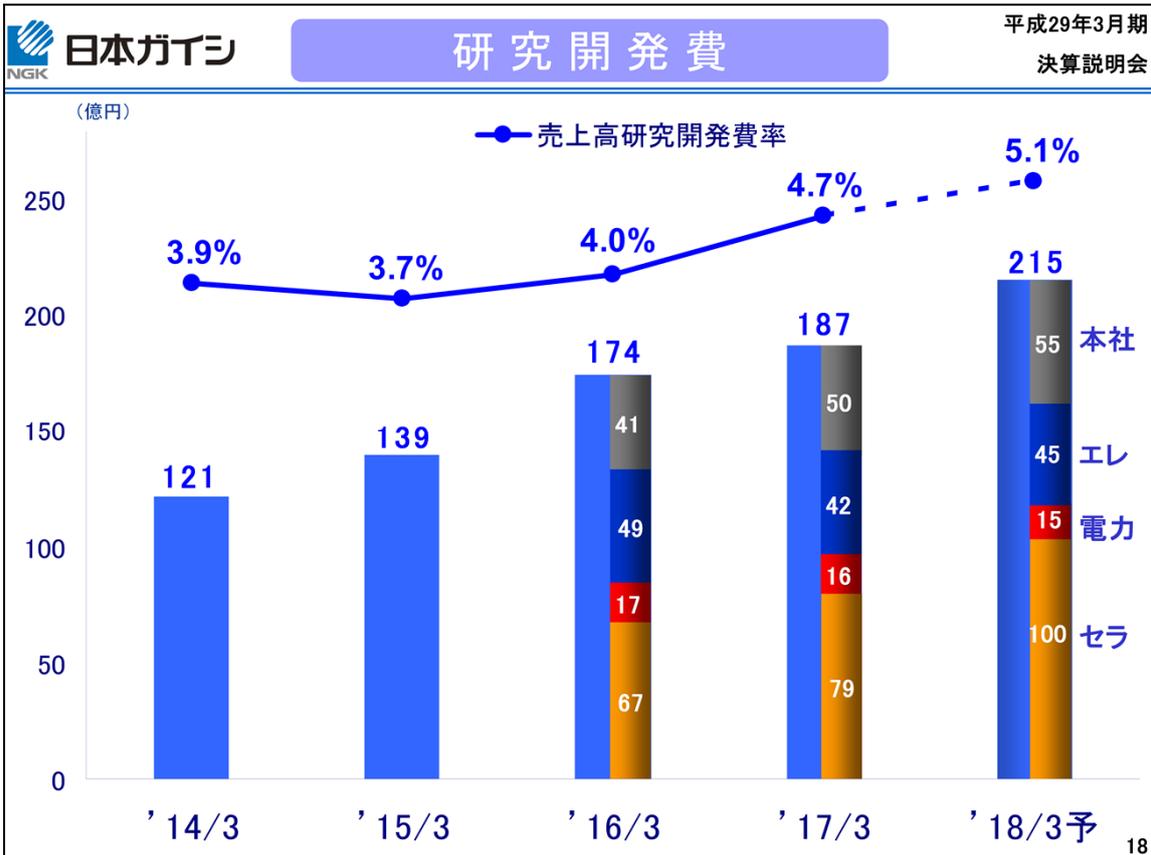
製造技術本部・研究開発部門・事業部・本社部門が連携して取り組み、新規事業の立上げを円滑に進めます。

	チップ型セラミックス二次電池	亜鉛二次電池	セラミック製燃料電池モジュール (固体酸化物形燃料電池(SOFC)モジュール)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・配向セラミックス正極板(基本特許取得済み) ・超薄型、高エネルギー密度、高温対応可 	<ul style="list-style-type: none"> ・新材料のセラミックス製セパレータ ・水系電解液(安全)、高容量、常温作動 	<ul style="list-style-type: none"> ・独自構造と独自セラミック材料 ・コンパクト、高発電効率、高耐久
最終用途	<ul style="list-style-type: none"> ウェアラブルデバイス スマートカード IoTモジュール オンボードマイコン電源 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用蓄電池(10kWh級) 屋内設置型蓄電池(500kWh級) ビル・病院・商業施設等 	<ul style="list-style-type: none"> 戸建て用およびマンション用(各戸に設置)燃料電池システム
進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・10社以上でサンプル評価中 ・安全規格 認証取得済み 	<ul style="list-style-type: none"> ・客先でのフィールド試験を計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・大手燃料電池メーカーで評価中
2018年度より順次事業化予定			

また、こちらは昨年より全社プロジェクトとして取り組んでいる「セラミックス電池プロジェクト」で開発中の3つの製品です。

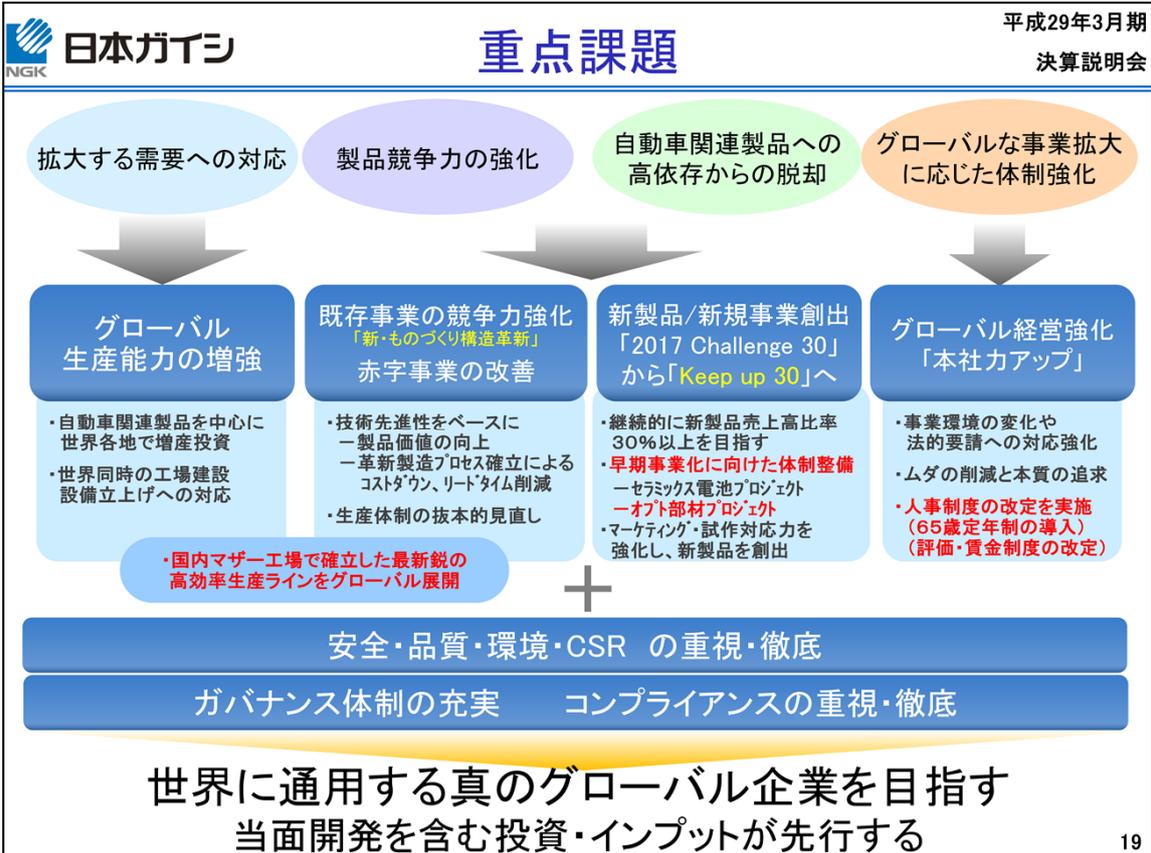
各製品の開発は今のところ順調に進んでおり、2017年度中に各製品ともパイロットラインを設置し、量産技術の実証を行う段階へと進みます。

先ほどの「オプト部材プロジェクト」で取り組んでいる窒化ガリウム(GaN)ウエハーと紫外LED用マイクロレンズに加え、「セラミックス電池プロジェクト」の3製品についても2018年度より順次事業化を予定しております。



研究開発費につきましては、前期比28億円増の215億円を予定しています。

先に申しあげました新製品の早期事業化に向けて製品開発・量産設備開発などのインプットを増やしていくと共に、既存事業については、自動車関連を中心に排ガス規制の強化に対応したDPFやGPFなどの開発投資を積極的に行ってまいります。



当社が取り組むべき重点課題について説明します。

2017年度は、将来の成長に向けての基盤整備と新規事業の確実な立上げが重要課題と考えています。

グローバル生産能力の増強や、既存事業の競争力強化と赤字事業の改善、新製品/新規事業の創出についてはこれまでにご説明しました。

そのほか、人材育成や働き方改革の面では、

65歳定年制を導入し、専門性をもったベテラン層が60歳以降も安心して力を発揮できる環境を整備しました。

また、一般従業員の人事制度を改定し、誰もがより高い職責に積極的にチャレンジできる仕組みに人事制度を改定しました。

こうした取り組みに加え、事業の拡大とともに増加する従業員に対し、安全・品質・環境・CSRといった業務の基本を徹底すると共に、ガバナンス体制の強化やコンプライアンスの徹底にも引き続き取り組み、世界に通用する真のグローバル企業を目指します。

当面の間は、将来の成長に向けて設備投資や開発などのインプットが先行しますが、インプットに見合った成果に繋げていきます。

(億円)			
	'16/3	'17/3	'18/3予
営業活動によるキャッシュ・フロー	594	802	450
投資活動によるキャッシュ・フロー	△478	△565	△610
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4 新規借入+168 返済△67	△130 新規借入+301 返済△192 自己株買付△112	220 新規借入+440 返済△90
現金及び現金同等物に係る換算差額等	△39	△21	△40
現金及び現金同等物の増減	74	86	20
現金及び現金同等物期末残高	1,361	1,447	1,467

20

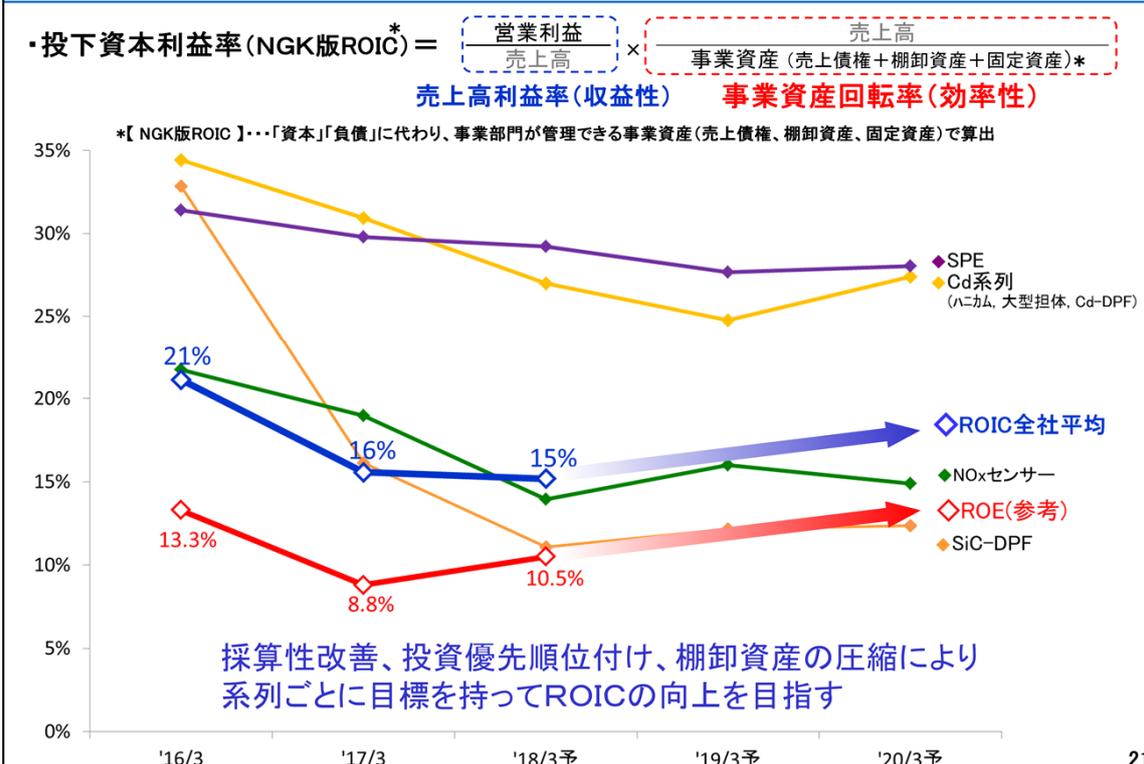
つづいて、当社の連結ベースでの要約キャッシュ・フローです。

終わりました17年3月期の現金及び現金同等物の期末残高は、フリー・キャッシュ・フローはプラスで、財務活動では、自己株式買付112億円の実施がありマイナスでしたが、全体では86億円増加の1,447億円の残高となりました。この他に、この表には表れない債券等の運用資金が473億円あり、合計では1,920億円ほどの資金残があります。有利子負債が1,742億円でしたので、NET CASHはプラスでした。

当面、開発を含むインプットが先行するため、今期のフリー・キャッシュ・フローはマイナスとなる見通しです。

財務キャッシュ・フローは、設備投資のために新規に440億円を借り入れる予定であることなどから、220億円の収入となる見込みです。

尚、現金同等物1,467億円の他に、この表には表れない債券等の運用資金が250億円程度あり、合計で1,717億円となる見通しです。有利子負債が2,100億円となることを見通しており、NET CASHではマイナスに転じる予定です。



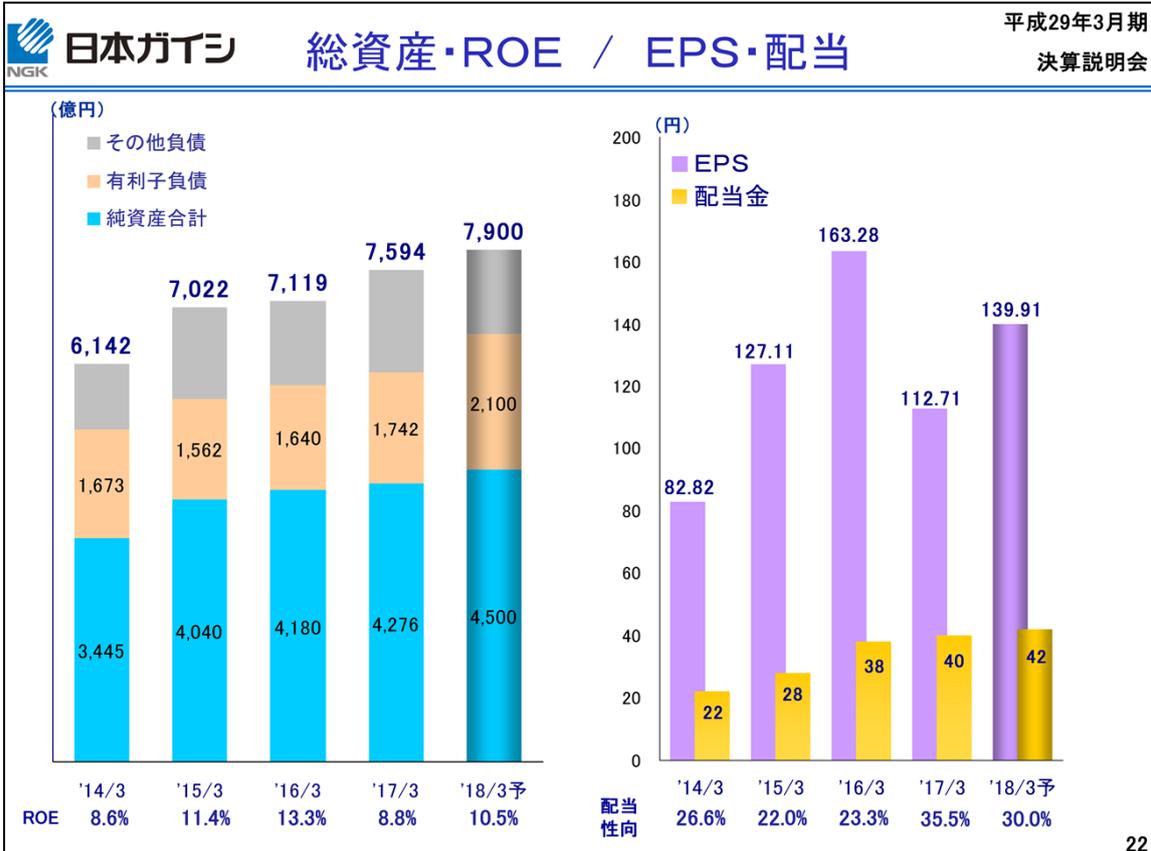
自動車関連製品やSPEなど、先行きの需要増に対して設備投資が先行するため、足許の事業効率が低下していることを意識しています。

こうした中、長期的に10%を上回る水準のROEを目指すためには、一定の借入を取り入れ、財務レバレッジを保っていくこと、採算性の改善に加えて、事業回転率を少しでも向上していくことを意識しています。

その取り組みの一つとして、投下資本利益率(ROIC)を社内に展開しております。

当社、NGK版のROICは、事業部の管理のしやすさを考慮に入れ、分母の投下資本を、事業資産のうち売上債権・固定資産・棚卸資産の合計額と定義し、分子は、(一般的な)税引後営業利益に代わって、(税前の)営業利益を用いています。

各事業部が予算計画の中で中期ROIC目標値を掲げ、採算性改善、設備投資の優先順位付けや在庫圧縮を意識し、各事業ごとに目標を持って、ROICの向上を目指しております。



最後に総資産、ROE、一株当たり利益、配当です。

前期(2017年3月期)の総資産は、有形固定資産や現金及び預金、たな卸資産が増加した結果、475億円増の7,594億円となりました。ROEは当期純利益の減少に伴い、8.8%となりました。

当期(2018年3月期)の(総資産)見通しについては、セラミックス事業やエレクトロニクス事業の設備増強により固定資産が増加する見込みであり、前年度より約300億円増の7,900億円となる見込みです。

また、ROEは当期純利益の増加により、1.7ポイント増の10.5%となる見通しです。

なお、DEレシオは、17年3月期が0.42、18年3月期が0.48と若干上昇する見通しです。

次に一株当たり利益、配当金です。前期は一株当たり利益が112.71円でした。期末配当金を20円とし、年間で40円とさせて頂く予定です。

当期の一株当たり利益は139.91円の見通しです。配当金は、中間、期末ともに21円の年間42円とさせて頂く予定です。

<セグメント間売上消去後>

(億円)

	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期
が い し	570	573	516	540
N A S	158	262	13	30
電 力 関 連 合 計	728	835	528	570
ハ ニ カ ム	724	810	770	760
S i C - D P F	418	441	382	410
Cd-DPF・大型ハニカム	689	716	678	650
セ ン サ ー	240	324	380	420
産 業 プ ロ セ ス	200	219	239	250
セ ラ ミ ッ ク ス 合 計	2,271	2,509	2,449	2,490
金 属	215	199	203	200
半 導 体 製 造 装 置 セ ラ ミ ッ ク ス	315	368	464	530
電 子 部 品	145	339	274	310
双 信 電 機	113	108	94	100
エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 合 計	788	1,014	1,035	1,140
全 社 合 計	3,787	4,358	4,013	4,200



<セグメント間売上消去後>

(億円)

	17年3月期		18年3月期	
	上期	下期	上期	下期
が い し	260	255	275	265
N A S	4	9	5	25
電力関連合計	264	264	280	290
ハ ニ カ ム	390	380	380	380
S i C - D P F	194	188	200	210
Cd-DPF・大型ハニカム	331	347	320	330
セ ン サ ー	175	205	200	220
産業プロセス	103	136	130	120
セラミックス合計	1,193	1,256	1,230	1,260
金 属	98	105	100	100
半導体製造装置セラミックス	205	259	250	280
電 子 部 品	137	136	141	169
双 信 電 機	45	49	49	51
エレクトロニクス合計	486	549	540	600
全 社 合 計	1,943	2,070	2,050	2,150

本資料は当社の経営方針、計画、財務状況等の情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績目標及び数値等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績数値は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知置きください。

 **日本ガイシ株式会社**

〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56

IR窓口：財務部 開示グループ

Tel. (052) 872-7210 Fax. (052) 872-7160

E-mail: ir-office@ngk.co.jp

Website: <http://www.ngk.co.jp>

